

木田支部 お楽しみ旅行的一幕

秋の日の爽やかな体験 「これは、ほっとけんな」

松楠会木田支部 杉山 恵子

同窓会で秋の一日を楽しんだ。目的地は、黒沢（くろぞう）湿原（徳島県三好市）。小型バスに、添乗員、バスガイド、おやつや飲み物付きの豪華旅行だ。参加者のほとんどが始めて訪れる地。目的地を選定した仲間が繰り返すCMに期待が膨らむ。

目的地、到着。パンフレットを片手に、植物に詳しい仲間の説明に頷きながら木道を歩く。秋風に吹かれ、秋の日差しを浴び、なんとも心地よい。大満足。

そこから、豪華昼食の待つ、祖谷溪へと向かう道中の出来事。

こんな道をバスが走れるのかと思うほど曲がりくねった細い山道を走る。対向車と出会う度に、「あっ、危ない」「もっと、こっち、こっち」「さすが、運転手さん。プロは違うのお」と、にぎやかに進んでいく。

と、バスが止まる。「今度は、何?」。前方を見ると、太くて長い樹が空中に横たわっている。丁度、バスの天井に当たる高さ。冒険映画でよく見るシーンの通りだ。

その時、さっと、バスを降りた男性3人。鋸を持って崖を登る。崖に架かっている木の先を切り、丸ごと下に落とす作戦だ。しかし、切れない。

「切るのは無理だ。持ち上げよう。てこの原理だ」と提案する人。しかし、それも上手くいかない。

私はといえば、力仕事で役に立つわけでもない。知恵を出せるわけでもない。「いつかはどうにかなる」と、ゆったり構える。

そこへ、ジープに乗ったお兄さん登場。様子を見て、「これは、ほっとけんな」。

長靴に履き替え、鋸と鉋を持って崖の上へ。枝をはね、幹を切り、下に落とした大木を道路の端に横たわらせた。私たちがしたかったことを、あっさりとして見せたのだ。

その後、バスは、何事も無かったように出発。豪華昼食と天空の露天風呂を楽しんだ。

他人の難儀を「ほっとけん」という気持ち。「ほっとけん」の気持ちを実現できる道具の準備。それを使いこなす技量。大切な力を持ち合わせたお兄さんであった。

秋の日差しや秋風の爽快さ、人の気持ちの温かさが心に染みた一日。忘れられない一日となった。 （教育・昭和47年卒）

